

6 高齢者の生活環境

(1) 高齢者の住まい

ア 高齢者の9割は現在の住居に満足しており、体が弱っても自宅に留まりたい人が多い

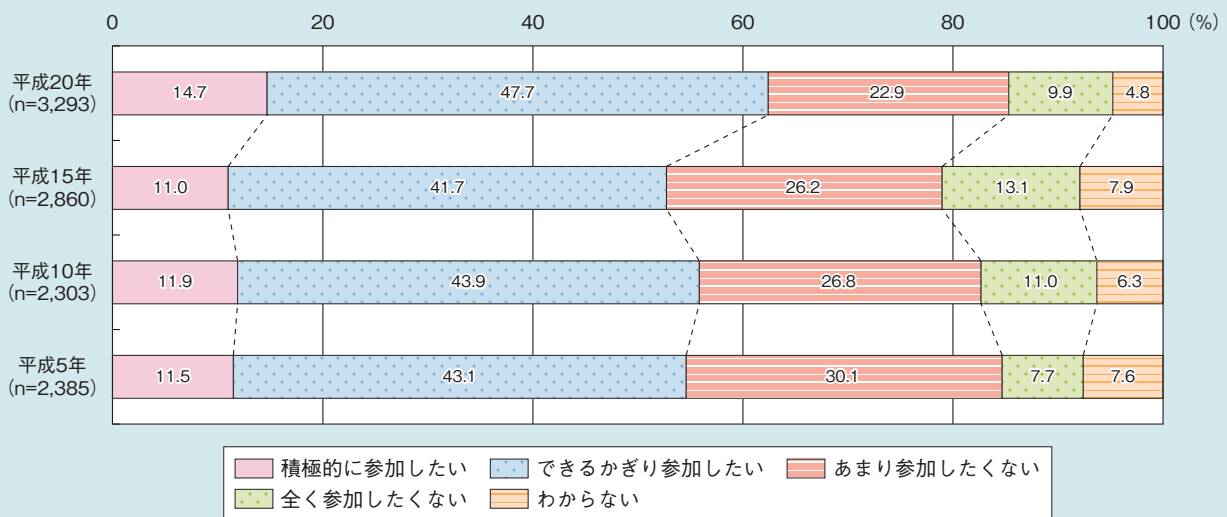
60歳以上の高齢者に現在の住宅の満足度について聞いてみると、「満足」又は「ある程度満足」している人は総数で89.3%、持家で91.2%、賃貸住宅で69.9%となっている（図1-2-6-1）。

さらに、同調査で現在住んでいる住宅につい

て不満な点を見ると、不満の理由は「住宅が古くなったりいたんだりしている」が16.8%、以下、「庭の手入れが大変」が10.5%、「住宅の構造や設備が使いにくい」が7.0%となっているが、「特に不満はない」が61.4%となっている。

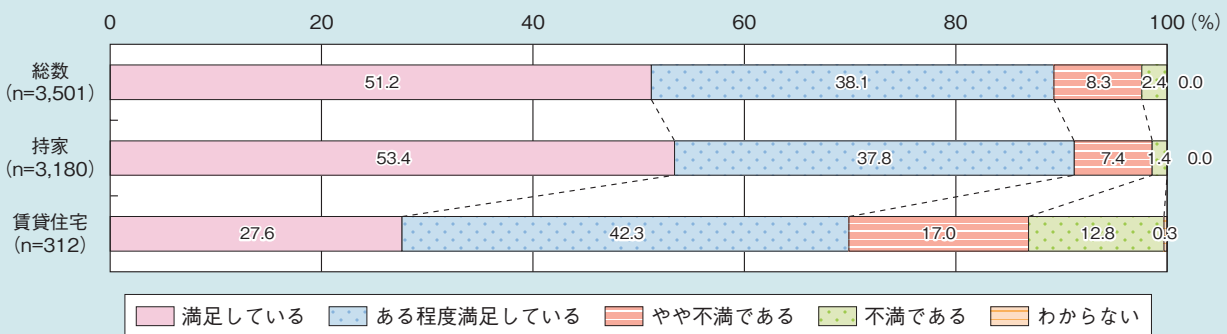
60歳以上の高齢者が、身体が虚弱化したときに望む居住形態についてみてみると、「自宅に留まりたい」（「現在のまま、自宅に留まりたい」と「改築の上、自宅に留まりたい」の合計）とする人が約3分の2となっているが、韓国、アメリカ、ドイツ、スウェーデンと比較す

図1-2-5-6 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成20年）
 （注）調査対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-6-1 現在の住居に関する満足度



資料：内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年）
 （注1）対象は、全国60歳以上の男女
 （注2）持家と賃貸住宅の回答者数と総数の差（n=9）は給与社宅等。

ると、スウェーデンに次いで低い数字となっている。また、自宅に留まりたい人の中でも「改築の上」で留まりたいとする人の割合は、日本は韓国に次いで低いが、5年前と比較するとやや上昇している（図1-2-6-2）。

イ 高齢者は家庭内事故が多く、最も多い事故時の場所は「居室」

国民生活センターに医療機関ネットワーク事業の参画医療機関から提供された事故情報によると、65歳以上高齢者の方が20歳以上65歳未満の人より住宅内での事故発生の割合が高く、65歳以上高齢者の事故時の場所にみると、「居室」45.0%、「階段」18.7%、「台所・食堂」17.0%が多い（図1-2-6-3）。

(2) 高齢者の居住環境

60歳以上の人々が地域で不便に思っていることをみると、平成22（2010）年では、不便な点が「特にない」という人が約6割（60.3%）であるが、不便に感じている事柄としては、「日常

の買い物に不便」（17.1%）が最も多く、次いで「医院や病院への通院に不便」（12.5%）、「交通機関が高齢者には使いにくい、または整備されていない」（11.7%）となっている（図1-2-6-4）。

(3) 高齢者の安全・安心

ア 高齢運転者による交通事故件数が高い水準で推移

65歳以上の高齢者の交通事故死者数をみると、平成24（2012）年は2,264人で前年より1.2%減少した。しかし、交通事故死者数全体に占める65歳以上の割合は51.3%と半数を超えている（図1-2-6-5）。

イ 振り込め詐欺の被害者の8割以上が60歳以上

犯罪による65歳以上の高齢者の被害の状況について、刑法犯被害認知件数でみると、全刑法犯被害認知件数が戦後最多を記録した平成14（2002）年に22万5,095件となり、ピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあり、23（2011）

図1-2-6-2 虚弱化したときに望む居住形態

